

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】

令和 4 年 7 月 29 日

評価対象事業		評価者	観光課長	鷲尾 礼弁
市民-15	海水浴場運営事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	観光課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	観光	施策の方針	観光基盤の整備・充実

1 事業の目的

対象	海水浴客等
意図	海水浴場の公衆衛生、危険防止及び秩序保持を図るため。
効果	観光消費の増大による既存産業の活性化、雇用機会の拡大等の経済的効果や、市民の誇りや郷土愛の醸成、観光客の定住促進等の社会的効果を通じて、地域の活性化につながる。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

<p>夏季における海岸での水難事故を未然に防ぐため、海岸事故未然防止員の人員配置を行った。</p> <p>夏季における海岸でのマナー向上のための推進員の配置及び海岸の清掃を行った。</p>
--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	海水浴場整備事業	海水浴場の開設が無かったことから未実施	海水浴客数(人)	79,460 / 550,000	550,000	550,000	
				0 / 45,763	35,645		
02	海水浴場警備事業	海水浴場の開設が無かったことから未実施	海水浴客数(人)	79,460 / 550,000	550,000	550,000	
				0 / 13,396	15,632		
03	海水浴場監視事業	海水浴場の開設が無かったことから未実施	海水浴客数(人)	79,460 / 550,000	550,000	550,000	
				0 / 59,582	63,051		
04	ファミリービーチ事業	令和3年度から予算計上を行っていない。	海水浴客数(人)	79,460 / 550,000	0	0	
				0 / 0	0		
05	夏季海岸整備事業	ごみ収集・運搬業務委託等の実施		/	0	0	
				19,784 / 0	0		
06	夏季海岸マナーアップ事業	マナーアップ推進員巡回及び海岸清掃業務委託	海水浴客数(人)	79,460 / 550,000	0	0	
				12,708 / 0	0		
07	夏季海岸事故未然防止事業	事故未然防止業務委託	海水浴客数(人)	79,460 / 550,000	0	0	
				50,051 / 0	0		
08	海岸パトロール事業	令和2年度のみ実施		/	0	0	
				0 / 0	0		
09				/			
				/			
10				/			
				/			
				国県支出金	56,758 /		
				財源内訳			
				地方債	/		
				その他特定財源	0 / 12,000	12,000	
				一般財源	25,785 / 106,741	102,328	
				事業費の合計(千円)	82,543 / 118,741	114,328	
				人件費(千円)	9,863	9,992	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.3	1.3	1.3			
会計年度任用職員	0.0	0.0	0.0			

## 5 評価結果

### (1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	海水浴場整備事業	海水浴客数 海水浴場を運営は、海水浴客のための施設であることから、海水浴客数を指標とした。	多くの海水浴客が訪れる鎌倉海岸において安全性、利便性を高める海水浴場の設置は、観光推進に寄与するものである。	安全で安心な海水浴場の運営のための安全対策の徹底
02	海水浴場警備事業	海水浴客数 海水浴場を運営は、海水浴客のための施設であることから、海水浴客数を指標とした。	多くの海水浴客が訪れる鎌倉海岸において安全性、利便性を高める海水浴場の設置は、観光推進に寄与するものである。	安全で安心な海水浴場の運営のため、マナー条例の徹底
03	海水浴場監視事業	海水浴客数 海水浴場を運営は、海水浴客のための施設であることから、海水浴客数を指標とした。	多くの海水浴客が訪れる鎌倉海岸において安全性、利便性を高める海水浴場の設置は、観光推進に寄与するものである。	安全で安心な海水浴場の運営のための安全対策の徹底
04	夏季海岸整備事業	指標の設定なし 海岸のごみ回収業務等夏季海岸において必要な事業を実施。	多くの海水浴客が訪れる鎌倉海岸において安全性、利便性を高める海岸利用への取組は、観光推進に寄与するものである。	安全で安心な海岸利用をしてもらうため、近隣住民等への配慮
05	夏季海岸マナーアップ事業	海水浴客数 海水浴場を運営は、海水浴客のための施設であることから、海水浴客数を指標とした。	多くの海水浴客が訪れる鎌倉海岸において安全性、利便性を高める海岸利用への取組は、観光推進に寄与するものである。	安全で安心な海岸利用をもらうために、マナー条例の徹底及び近隣住民等への配慮
06	夏季海岸事故未然防止事業	海水浴客数 海水浴場を運営は、海水浴客のための施設であることから、海水浴客数を指標とした。	多くの海水浴客が訪れる鎌倉海岸において安全性、利便性を高める海岸利用への取組は、観光推進に寄与するものである。	安全で安心な海岸利用をもらうための安全対策の徹底
07				
08				
09				
10				

### (2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー	鎌倉市海浜組合連合会

### (3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
市民や観光客が安全で安心した海水浴場となるように、安全対策、風紀維持に努める。					

**【参考】**

**◎事業実施に係る主な指標**

指標(単位)	観光客の満足度						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
当該事業の実施により、観光客の満足度を向上させるため。	目標値	88.5	89.0	89.0	89.5	89.5	90.0	
	実績値	81.0						
	達成率	91.5%						

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

**◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)**

比較事項	海水浴客数(上段:令和元年度、平成30年度)※令和2、3年度は海水浴場は開設せず。							
団体名	鎌倉市	藤沢市	横須賀市	逗子市	三浦市	横浜市	川崎市	箱根町
他市実績	355,000	1,551,785	124,000	13,600	7,085	93,369	334,800	450,827
	700,000	1,571,454	168,000	18,924	19,893	117,446	364,000	578,339

比較事項	海水浴場開設費用(上段:令和元年度、平成30年度)※令和2、3年度は海水浴場は開設せず。単位:千円							
団体名	鎌倉市	藤沢市	横須賀市	逗子市	三浦市	横浜市	川崎市	箱根町
他市実績	102,425	31,926	15,479	9,817	603	23,089	19,171	3,172
	75,367	29,295	14,561	9,768	1,283	21,356	18,956	3,523
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	海水浴場の規模や開設期間が市町村ごとに差異がある中で、一概に海水浴客数や開設経費をもって事業規模の適否を判断することはできない。しかしながら、本市は県内でも有数の入込客数があることは事実であり、それに伴い多額の開設経費を要している実情を踏まえ、訪れる海水浴客及び周辺住民双方が満足する海水浴場運営を進めていく上で、事業規模の拡大縮小を検討する際の一つの指標として、今後も引き続き推移を見守る必要がある。							